



ともにあゆみ ともにかがやいた 1年

安全・安心な学校をベースに、こどもたちが「今日一日楽しかった」と満足感を持ち、「明日は学校でこれをしよう」と楽しみに思う学校となるよう取り組んでまいりました。今年度もこどもたちのかがやく姿をたくさん見ることができました。本校の教育活動に教育パートナー（協働支援者）として御理解御協力をいただき、ありがとうございました。

輝く姿を追い続ける 清水特別支援学校は、開校以来「こどもの生活づくり」を教育の軸として大切にしてきました。学校経営の共通主題「地域を教室に」「地域に遊び、学び、参加する」のもと、すべてのこどもたち、すべての教職員、保護者の皆様、そして学校を支えてくださる地域の方々とともに、学校教育目標「ともにあゆみ ともにかがやく」の実現を目指しています。学校には、こどもたちの「やった」「できた」「もっとやりたい」といった輝き、家庭で支える喜びの輝き、支援・指導にあたる教職員の輝き、そして地域の支援の輪が放つ輝きがあふれています。主体的に取り組み、意欲を持つこどもたちは、時に予測できない出来事に出会っても、周囲の人と関わりながら、自分なりの力で乗り越えていってくれると信じています。

地域と清水特別支援学校のかかわり 清水港、豪華客船の寄港、七夕祭り、港まつり“みなとかつぼれ”を踊って盛り上がり、富士山を望む三保の松原、東海道五十三次由比宿、しらすやさくらえび、折戸ナス、レッドオーレ、さやむすめなどの特産品、ちびまる子ちゃんや清水の次郎長、プロサッカーチームエスパルス、プロ野球チームハヤテベンチャーズ静岡。かつてはさつき通りを三保まで路面電車が行き交い、駿河湾を行き交う水上バスでの通学・通勤。まだまだ清水は奥が深く、魅力的な街です。こどもたちの住む清水で生きた学びができたとしたら、それはそれは素晴らしいことです。こどもたちは、清水の良さ・魅力・すばらしさをどこまで知っているのでしょうか？今後も地域、清水を教室により広く深く学んでいきます。

自立と社会参加、誰もが幸せを感じる学校 特別支援学校は、卒業後の社会参加や自立を大きな目標としています。私が考える社会参加とは、「働くこと」だけに限りません。家族と共に生活すること、地域の中で様々な人と関わりながら暮らすこと、人と挨拶を交わすこと、近くの店へ買い物に行くこと、ひとりで、あるいは仲間とスポーツ観戦や旅行に出かけることなど、そうした日常の一つ一つが社会参加であると考えています。社会参加の目的は、その人が人との関係や興味・関心を広げ、生涯にわたって楽しみややりがいを見つけ、自分らしく生き生きと生活できるようにすることです。静岡県版「共生・共育（インクルーシブ教育システム）」の理念も、まさに一人一人の学びと生活を地域の中で支えていくことの大切さを示しています。そのためには、好きなこと、やりたいこと、得意なことを持ち、それらを少しずつ増やしていくことが欠かせません。幸せの四因子である「ありがとう」と感謝する心、「やってみよう」と挑戦する心、「なんとかなる」と前向きに切り替える心、そして「あなたらしく」と自分の良さを大切にすることを大切に、これからも、誰もが輝き、幸せを感じる学校であり続けます。

～ 清水特支から 幸せの風が届きますように ～

清水特別支援学校
校長 片岡 佳美



11月13日（木） 令和7年度 公開授業研究会

令和6、7年度の研修テーマは「自ら学び、良さを伸ばすこども～AARサイクルを活かし、各教科等を合わせた指導の特長を捉える授業づくり～」です。県立特別支援学校教員35名、市内小中学校教員10名、その他福祉関係2名、助言者4名、合計51名の方が参加してくださいました。

午前は小学部2年生の遊びの指導『たんけんたい、秋で遊ぼう！』、中学部2年生の生活単元学習『「清水自慢フェスティバル」がんばるぞ！』、高等部印刷工芸班の『目指せ、お客様評価五つ星！～清水の魅力がつまった紙製品を作ろう～』の授業参観がありました。教師が「何を学ばせたいか」ではなく、こどもたちが「何を学びたいか」を大切に授業を作ってきました。午後は研究協議や、助言者からの講義がありました。高等部分科会の参加者からは「生徒のやってみようという思いから始まるものでとても良かった。生徒の力を生かすためにどのように教師が関わり、引き出していくかを良く話し合われていると感じた。また、地域とのつながりがとても良かった。」という感想が寄せられました。1日の最後には植草学園大学特命教授佐藤慎二先生による講演会「子どもと教師が創る授業～各教科等を合わせた指導の魅力～」を全員で聞き、学びの多い一日となりました。ありがとうございました。



高等部生徒による作業製品販売
研修課長 川野実由紀



給食感謝の会



1月27日（火）中学部、高等部、30日（金）小学部で給食感謝の会（給食ありがとうの会）が行われ、毎日みんなのためにおいしい給食を作ってくれる栄養教諭や調理員さんに感謝の気持ちを伝えました。給食ができるまでの写真を見たり説明を聞いたりして、調理員さんの中には早い人で6時に来ていることや全部で340食の給食を作っていることなどを知り、児童生徒からは驚きの声が聞かれました。また、調理員さんが使う大きなしゃもじを見せてもらい、実際に手に持つと「重い。」「落としそう。」などの感想が聞かれました。各学部からは工夫を凝らして作成したメッセージカードや手紙、手作りの花束やプレゼントを渡したり、小学部では握手やタッチをしたりして、栄養教諭や調理員さんに直接感謝の気持ちを伝えることができました。調理員さんからは「皆さんが喜んでくれることが分かってとてもうれしいです。これからも給食を楽しみにしてください。」との言葉をいただきました。とても楽しく、有意義な給食感謝の会になりました。

保健給食課 勝見浄実



令和7年度 高等部3年生（25人）進路先

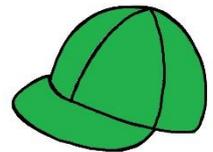
一般就労 （10人）	株式会社ノダ、日星工業株式会社、株式会社アイエイアイ、 トヨタユナイテッド静岡株式会社、株式会社ヤヨイサンフーズ、 レンゴー株式会社、日軽金オーリス株式会社、鈴与商事株式会社、 しずぎんハートフル株式会社、イハラニッケイ化学工業株式会社
就労移行支援（1人）	株式会社静岡ドリームビレッジ 清水ドリームビレッジ
就労継続支援 A型事業所（2人）	合同会社クアチュオール ジョニーズキッチン
就労継続支援 B型事業所（7人）	株式会社七施 arts&crafts ななせ、社会福祉法人共生会 ライク、 株式会社静岡ドリームビレッジ ラビット清水、株式会社 nanairo、 有限会社スターワールド スタジオプレアデス、合同会社はあと、 社会福祉法人恵和会つきのわぐま、株式会社 MIYO nicowalk
生活介護事業所 （4人）	株式会社静岡ドリームビレッジドリームステップ清水アーク、 特定非営利活動法人ワークホーム結、株式会社 MOCONA ふれあい荘、 障害者サポートセンターそら ここ
専門学校（1人）	学校法人川口学園 川口調理師専門学校

それぞれの場所で御活躍されることを願っています。御卒業おめでとうございます。

進路指導課長 小熊信敦

小学部

この1年は小学部の最上級生として『ロック（6）オン！リーダーは6年生』という合言葉のもと、それぞれの学期に目標を持って、様々な学習にロックオンして（取り組んで）きました。



『にこにこ1学期』は小学部のリーダーとして、学部の友達を笑顔にすることに挑戦しました。1年生を迎える会では、グループに分かれて会の運営に取り組みました。また、七夕祭りでは、ゲームや景品で小学部の友達を笑顔にしました。どの児童も自分の役割を全うし、達成感に満ちた顔が印象的でした。

『伝える2学期』は、静岡のお茶の魅力や修学旅行先の浜松について調べたことについて発表したり、音楽発表会スペシャル（歌、合奏）に取り組んだりしました。特に全員で取り組んだ合奏は“去年の自分たちを超えよう！”と意気込み、難しい曲に挑戦しました。18人で舞台に立ち、合奏をやり遂げ、大きな拍手を受けて大成功でした。これぞ6年生！さすがリーダー！立派な最上級生に成長しました。

そして、『感謝の3学期』では、小学部生活のまとめとして、大好きな人達に“ありがとうの気持ち”を伝える学習をしてきました。その集大成が卒業式です。きっと晴れやかな笑顔で“かっこいい”姿を見せてくれることでしょう。みんなの顔晴る姿が大好きです！



小学部6年学年主任 村瀬知香

中学部

『たよれるリーダー すてきな3年生』4月に自分たちで決めた学年目標です。この目標を達成するために、『あいさつ』『身だしなみ』『時間を守る』『丁寧な言葉遣い』を意識し、自分の気持ちや考えを『伝える』、どんな時でも『自分で動く』そして、つねに仲間と『協力できる』ことを大切にして、取り組んできました。

そんな3年生、自分からあいさつができ、5分前行動で、授業に遅れることもありません。また、修学旅行や受検に向けて、鏡を見て身だしなみを整えることもできるようになりました。そして、自分の言葉やサインを使ったり、選択したりすることで自分の思いや考えを伝えることができるようになりました。仲間を思いやって行動できることも、みなさんのすてきなところですよ。だからこそ、修学旅行では、自分たちで名古屋での行き先や食べたいものを決めることができました。また、自分のことは自分でやったり、友達同士で協力したりして、たくさん楽しみ、最高の思い出を作ることができました。受検もみんなで乗り越え、高等部へ合格することができましたね。最後は卒業式、これまで積み重ねてきた力を発揮し、3年間の集大成として『すてきな3年生』の姿を見せてくれることでしょうか。高等部でもみなさんが輝けるよう、応援しています。



中学部3年学年主任 鈴木瑛希子

高等部

3年間という高等部の生活も3月6日に卒業式を迎えます。思い返すと高等部の3年間はあっという間だったのではないのでしょうか。特に3学期は、残りの学校生活をカウントダウンしながら、1日1日を大切に過ごしてきました。生徒からは、名残惜しさや、目一杯楽しんでいる様子が伺えます。

一方でこれから社会に出ていくことに、本人も保護者も期待と不安が入り混じる時期でもあります。以前の移行支援会議で進路先の企業よりアドバイスをいただいた際に、「今までは学校という名の傘の下で守られてきたが、これからは自分で責任を持って生活をしてほしい。」とメッセージをいただいたことがありました。確かに、今までは何かあれば、学校や担任と連絡を取り合ったり、学校の様子も連絡帳で把握できたりしましたが、できなくなります。しかし、社会生活の中で本人は自己決定の場が増え、責任と自信が付いたり、社会性が身に付いたりして、大人へと成長していきます。

4月を境に本人も保護者も「学生」から「社会人」になることへの意識改革が必要であると感じます。保護者のサポート、何気ない本人の一言や行動を観察していただき、順調に社会生活がスタートできることを願っています。

卒業後に生徒に会った時に、「今の生活が楽しい」「こんなことを頑張っている」などの報告を聞けることを楽しみにしています。生徒それぞれが輝く未来へはばたくことを願っています。

御卒業おめでとうございます。

高等部3年学年主任 久保田章彦